

## 利用上の注意点

### ユーザーアカウントについて

複数人で一つのユーザーアカウントを共有する行為、ユーザーアカウントの他人への貸与は許されていません。年度途中でメンバー追加や削除は可能です。[メンバー管理申請のページ](#)に情報がありますので、そちらをご覧ください。

### ファイルシステム利用についての留意点

#### 大量のファイル作成は御遠慮ください

大容量ディスクでは、大量のファイルの扱い（特に同一ディレクトリーにある場合）は弱いです。小容量のファイルを多数格納しておく必要がある場合は、tar コマンドによりアーカイブを行い、1 ファイルとして保存しておくことを推奨します。さらに gzip 等のコマンドによりファイルの圧縮を行い、必要な時に gunzip コマンドにより解凍を行えば、ディスク容量の有効活用も可能です。

#### 一つの大きなファイルへの集中アクセスは避けて下さい

大容量ディスクでは一つの巨大なファイルにアクセスが集中するとディスク全体のパフォーマンス低下が起こることがあります。例えば、1 つの 100 GB のファイルを 500 個のジョブが同時に読み込むような場合がそれにあたります。このような利用方法は極力避けるようお願いいたします。どうしても避けられないようであれば、まずは一度ご相談下さい。

#### ジョブ実行時の標準出力や標準エラー出力への大量書き込みは避けるようお願いします

ジョブ中の標準出力や標準エラー出力は一旦計算ノードのローカルファイルに保存され、ジョブ終了時に指定場所(デフォルトは実行ディレクトリ)にコピーされます。標準出力や標準エラー出力が大きくなりすぎると、ジョブ終了時のコピーに失敗したり、予期せぬエラーで計算が異常終了する可能性があります。

### ディスク領域の区分

下記のように領域ごとに用途を分けて設定しておりますので、適切なディスク領域のご利用をお願いします。

領域名	バックアップ	保存期間	使用量制限	用途
/home	×	利用終了後 1 年	○	データ置き場 (現在は /home と /save は全く同様に扱われます)
/save				
/work	×	ジョブ実行期間のみ	×	ジョブ実行時の一時領域

▶ ディスク容量に余裕がある場合には保存期間を伸ばすことがあります。

### システム障害時のバッチジョブの扱い

システムがハードウェアやソフトウェアの問題で突然停止することがあります。この場合、ジョブがエラー終了するまでの CPU 点数は消費されません。ジョブが自動的に再実行となった場合は、再実行時の時間分だけ CPU 点数が消費されます。

### フロントエンドサーバ上でのプログラム実行について

フロントエンドサーバには、短時間のテストジョブ実行や計算結果データの圧縮や集計などの用途においてプログラム実行が可能なように、計算ノードと同様の環境を設定しております。ただし、以下の制限があります。

- ▶ リソースを使い切る等他のユーザの迷惑になりそうな場合には制限をかけたたり、プログラム実行を停止する可能性があります。
- ▶ いくつか制約を設けているため、計算ノードと同等の速度は期待できません。性能測定のような目的ならば計算ノードをご利用下さい。